

2019年3月期 決算説明会

2019年5月16日

株式会社日清製粉グループ本社



目 次



- I. 2019年3月期 実績、及び2020年3月期 業績予想
- II. 長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」の取組み
- III. 持続的な「循環成長」に向けた取組み
- IV. 国際貿易交渉の進展
- (参考) 小麦相場の状況



I. 2019年3月期 実績、 及び2020年3月期 業績予想

1. 2019年3月期 実績

健康と信頼をお届けする



- ▶ 売上高は、麦価改定に伴う小麦粉価格改定の影響、及びエンジニアリング事業における大型工事の好調な進捗等により**増収**
- ▶ 営業利益は、米国向け医薬品原薬の輸出、及び大型の設備工事案件等が好調に進捗したものの、人員増強や研究開発、広告宣伝の強化、Allied Pinnacle Pty Ltd.（以下、アライド・ピナクル）買収関連費用等の戦略コスト増、及び競争が厳しい米国製粉事業のマイナス等により**減益**

(単位：百万円)	2019年3月期 実績	前年実績		業績予想	
			比		比
売上高	565,343	540,094	+4.7%	565,000	+0.1%
海外売上高比率	18.3%	17.8%	—	17.8%	—
営業利益	26,916	27,200	▲1.0%	27,500	▲2.1%
経常利益	32,062	31,800	+0.8%	32,000	+0.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	22,268	21,339	+4.4%	22,000	+1.2%

※金額は百万円未満切り捨て

2. 2020年3月期 業績予想

健康と信頼をお届けする



- ▶ 売上高は、アライド・ピナクル及びトオカツフーズ(株)の買収効果により**増収**を見込む
- ▶ 営業利益は、アライド・ピナクル及びトオカツフーズ(株)の買収に伴うPMI費用の増加を含む戦略コストが発生するものの、新規連結効果、米国向け医薬品原薬の輸出好調等により**増益**を見込む
なお、アライド・ピナクルがリースしている固定資産に対応したリース負債の支払利息の影響により、経常利益は微減益を見込む

(単位：百万円)	2020年3月期 業績予想	2019年3月期 実績	前年差	前年比
売上高	725,000	565,343	+ 159,656	+ 28.2%
海外売上高比率	23.4%	18.3%	—	—
営業利益 (※)	30,000	26,916	+ 3,083	+ 11.5%
経常利益	31,700	32,062	▲ 362	▲ 1.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	23,300	22,268	+ 1,031	+ 4.6%

(※) 2020年3月期業績予想に織り込んだアライド・ピナクル及びトオカツフーズ(株)ののれん等償却費はPPA前の概算値であり、変動の可能性がある

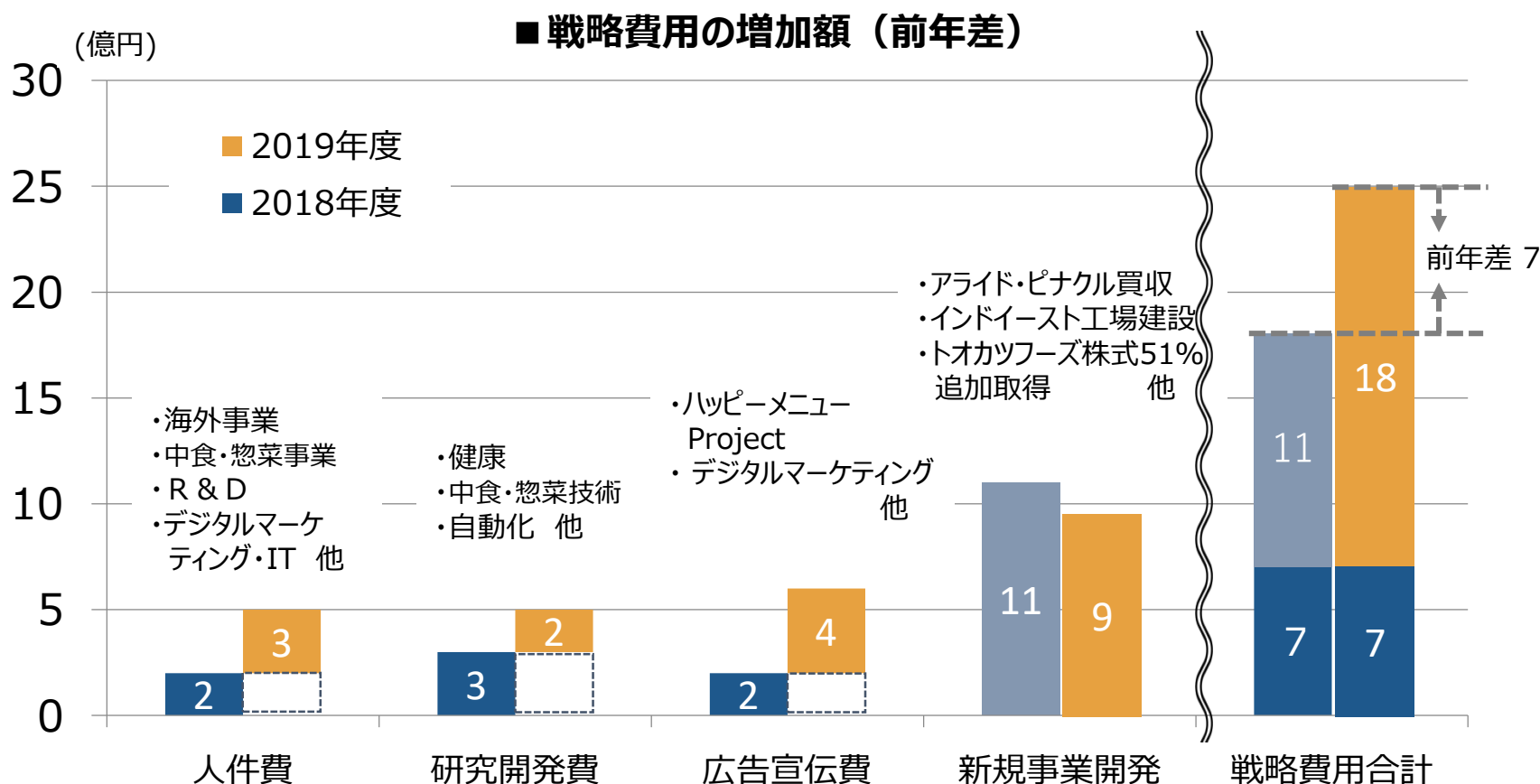
※金額は百万円未満切り捨て

3. 戦略費用の状況

健康と信頼をお届けする



- ▶ 持続的成長に向けて、各領域に計画的、継続的に資金を配分し、戦略投資を今後さらに積極的に加速させる



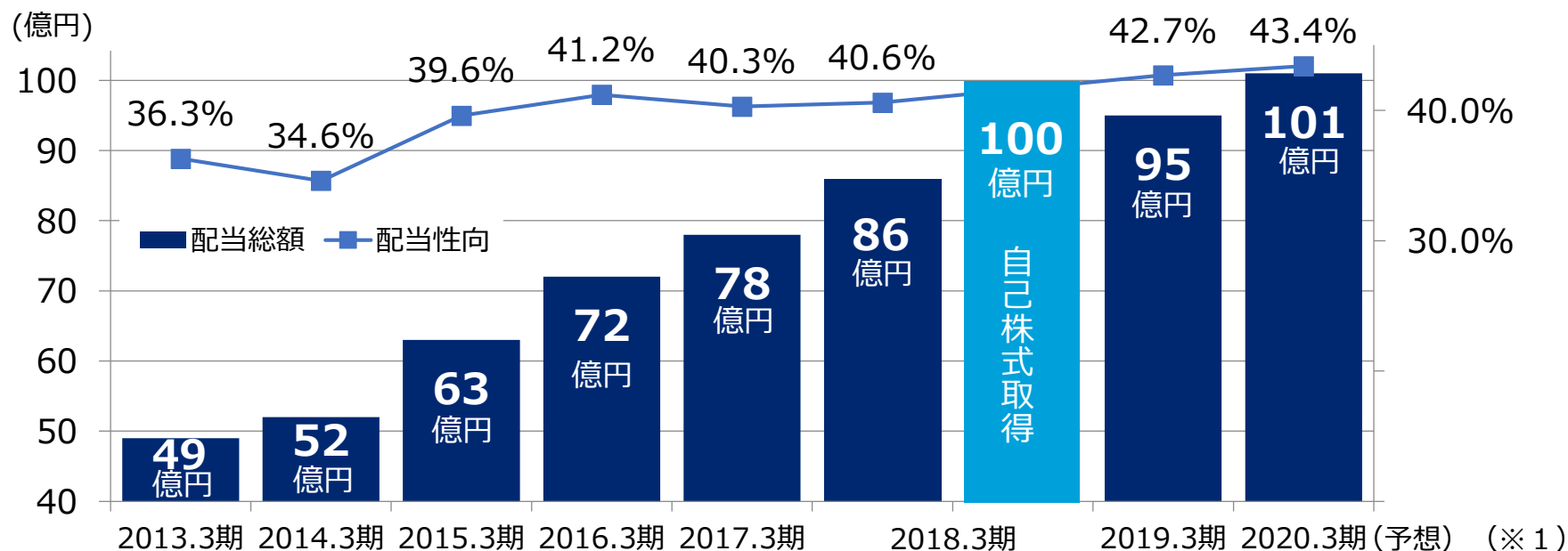
4. 株主還元

健康と信頼をお届けする



配当総額と配当性向の推移

- ・配当性向は**40%以上**を基準とする
- ・実質的に**7年連続**となる**増配**を実施予定



1株当たり
配当金

20円 20円 22円 24円 26円 29円 32円 34円

実質的に7年連続の増配を実施予定 (※1)

2年連続で1株を1.1株に株式分割し、実質増配 (※2)

(※2) 2013年10月1日付け、2014年10月1日付けにて、1株を1.1株に株式分割を実施。1株当たり配当金を据え置き実質増配

(※1) 2019年3月期は、中間配当で1株当たり2円増配実施、期末配当は同1円増配予定
2020年3月期年間配当も同2円増配を予定



Ⅱ. 長期ビジョン

「NNI “Compass for the Future”」の取組み

1. NNI "Compass for the Future" ①

～ グランド・デザイン ～

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

<目指す姿>

未来に向かって、「健康」を支え
「食のインフラ」を担うグローバル展開企業

全温度帯で毎日の
食卓を提案する
加工食品・中食惣菜

食のインフラ
小麦粉関連素材

健康・医療を支える
ファインケミカル・
バイオ

人とペットの
幸せをつくる
ペットフード

世界のモノづくりを
支える粉体・メッシュ
テクノロジー

企業価値の
極大化と持続的な
循環成長の実現

循環成長

成長戦略の実行力を高める
組織体制の構築

組織・人材

経営力

企業風土

経営管理・財務機能

持続的な「循環成長」の推進

ESG

事業競争力の強化

既存事業モデル
チェンジ

事業ポートフォリオ
強化

成長の鍵となる
グループ総合力

グループ総合力

顧客志向
の徹底

3つの
連携

企業価値の極大化を
長期的に支える
資本政策の推進

投資戦略

バランスシート

利益還元

資本効率

企業価値

創業以来の価値観

～事業を通じた社会への貢献～



社 是 : 信を万事の本と為す
時代への適合

企業理念: 健康で豊かな生活
づくりに貢献する

1. NNI “Compass for the Future” ②

～ 事業競争力の強化 ～

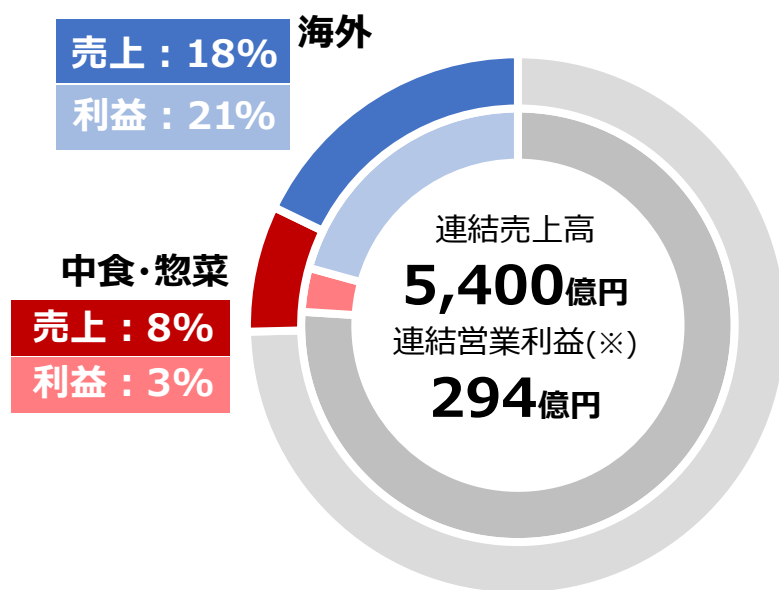
健康と信頼をお届けする



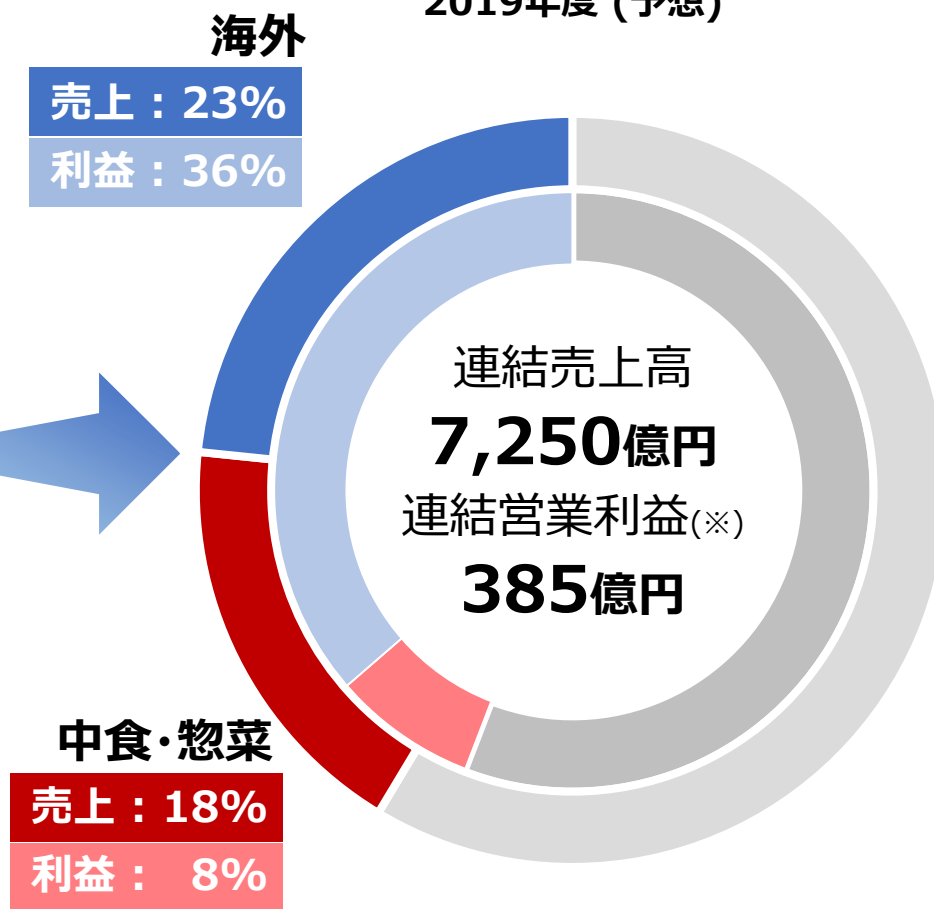
成長ドライブ事業として、海外事業と中食・惣菜事業は飛躍的に拡大
将来の成長に向けて当社グループは**モデルチェンジを加速**

■全事業における成長事業（海外/中食・惣菜）構成比の変化（長期ビジョンのスタートから2年間）

2017年度（実績）



2019年度（予想）



(※)連結営業利益はのれん等償却前の利益

2. 海外製粉事業の成長戦略①

～ オセアニア市場への本格参入①～

健康と信頼をお届けする



日清製粉グループ

豪州でトップシェアを持つ製粉企業アライド・ピナクルを買収 日清製粉グループはオセアニア最大の製粉企業に躍進

- ▶ 会社名称 : Allied Pinnacle Pty Ltd.
- ▶ 売上高 : 473億円 (2017年12月期)
- ▶ 小麦粉生産能力 : 3,500 t / 日 (原料小麦ベース)
- ▶ シェア : 約40%で豪州第一位 (でん粉製造用の産業用途を除く)
- ▶ 企業価値 : 731億円 (のれん約520億円 : PPA前の概算値)
- ▶ 買収の背景と目的 (80円/1豪ドルとして)



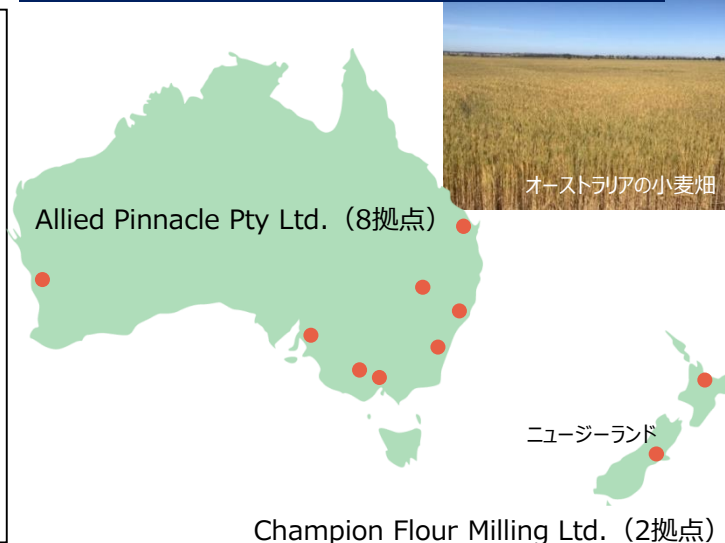
ALLIED PINNACLE

- ▶ 豪州は年率約1.6%の人口増加が続く成長市場 (2017年人口は約 25百万人)。豪州トップの強固な事業基盤をベースに当社グループの技術・ノウハウを投入し、更なる成長を見込む
- ▶ 豪州は小麦の主要産地国 (日本向けにおいては米国、カナダに次ぐ第三位)。現地の農家や穀物会社との調達ネットワークを構築することで日本向け原料調達力の強化の可能性
- ▶ 既存の製粉・ミックス拠点とアライド・ピナクルのグローバル連携を推進し、アジア、オセアニア全域のベーカリー向け素材事業の安定成長を目指す
- ▶ 豪州とニュージーランドの販売・物流網を活用した拡販や業務効率化に取組み、チャンピオン製粉Ltd.とのシナジー創出を図る

ピクトン工場 (シドニー近郊)



■ オセアニアの製粉・プレミックス工場 (10拠点)



2. 海外製粉事業の成長戦略①

～ オセアニア市場への本格参入②～

健康と信頼をお届けする



日清製粉グループ

- ・アライド・ピナクルは、小麦粉を中核に、プレミックスやベーカリー関連原材料を取り揃え、**顧客ニーズに合わせた総合的な提案力**が強み
- ・日清製粉、日清フーズ、オリエンタル酵母工業の国内3社のコア技術を投入し、**グループ総合力で成長を目指す**



ALLIED PINNACLE

小麦粉



- ・パン用粉、菓子用粉、全粒粉、オーガニック粉、デュラム等

- ・**日清製粉**の高い製粉技術や品質管理ノウハウの共有
- ・ニュージーランドを始め、タイや北米事業との連携



製パン・製菓
顧客

プレミックス



- ・パン用ミックス、菓子用ミックス、ピザ用ミックス

- ・**日清フーズ**の強み、顧客ニーズに応えるR & Dにおける協同
- ・タイ・ベトナム・中国のプレミックス事業との連携



ベーカリー 関連原材料



- ・ジャム、フォンダン、フレーバー、冷凍生地 等

- ・**オリエンタル酵母工業**のベーカリー向け食品素材を中心にノウハウを共有
- ・上海拠点、インドイースト工場との連携



2. 海外製粉事業の成長戦略②

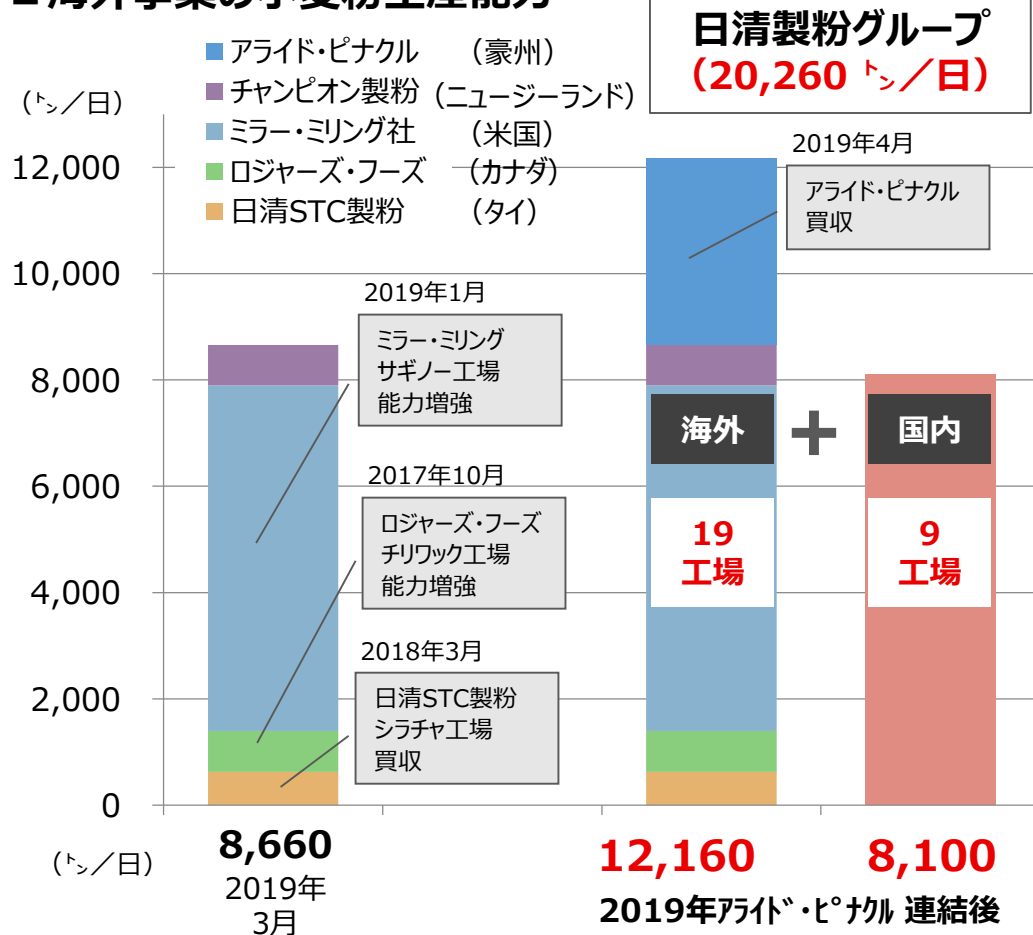
～海外の小麦粉生産能力の推移～

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

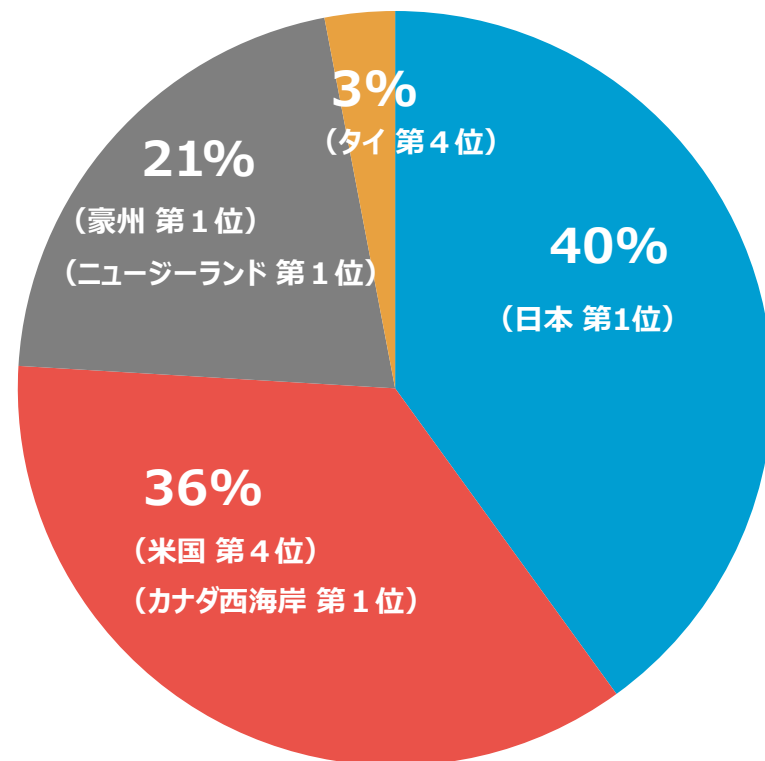
- ・日清製粉グループの小麦粉生産能力は20,260^{トン}／日で**世界第6位**（当社推定）
- ・海外の生産能力は12,160^{トン}／日となり、**国内の1.5倍**の規模に拡大
- ・事業拠点は日本を中核に、北米・オセアニアに広がり**グローバルに展開**

■ 海外事業の小麦粉生産能力



■ エリア別小麦粉生産能力構成比

■ 日本 ■ 北米 ■ オセアニア ■ タイ



3. 海外食品事業の成長戦略

～イースト事業、業務用プレミックス事業の拡大～

健康と信頼をお届けする



将来の成長ドライバーである**インドのイースト新工場**、及び**ベトナムのプレミックス新工場**の建設は共に順調。生産体制の構築、顧客サポートなど稼働に向けて同時進行中

OY インド Pvt.Ltd. (オリエンタル酵母工業(株)子会社)

ベトナム日清テクノミック Co.,Ltd.

インド市場の成長性

インドの巨大パン市場でイースト事業の高成長を期待

日本の技術優位性

高品質でコスト競争力ある製品を供給

ASEAN市場の成長性

経済成長に伴いASEANのプレミックス市場は着実に成長

日本の技術優位性

顧客ニーズに応える差別化された製品を供給

立地優位性

インドは原料の糖蜜生産量が世界第2位。水資源も豊富なプネ市近郊に工場建設

万全の環境対策

Zero Liquid Discharge Systemで工場外排水ゼロ

立地優位性

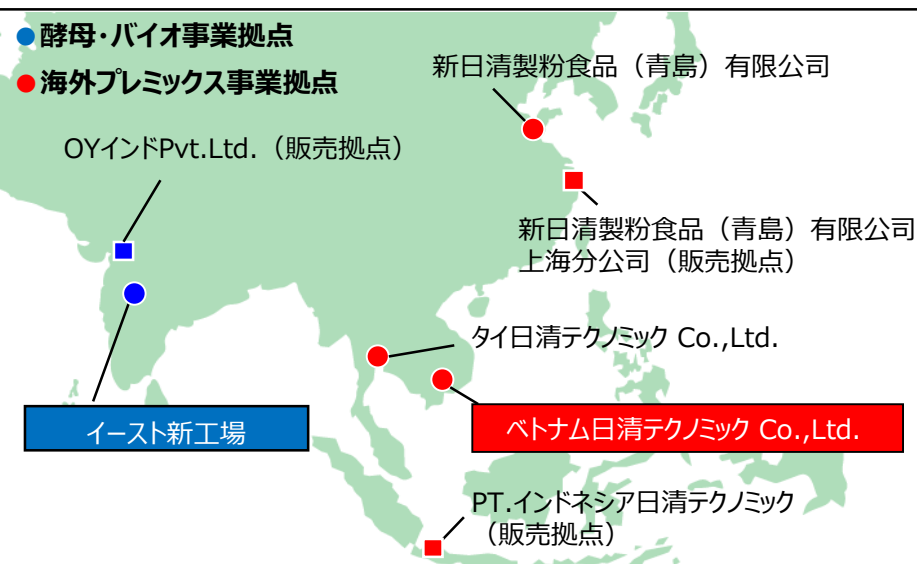
ベトナムは質の高い人的資源を背景に海外向け加工食品の生産基地としても発展

タイ・中国との連携

タイ・中国の既存プレミックス拠点とグローバル連携を充実

インド工場の概要

【生産能力】 100トン/日
(生イーストベース)
【完工時期】 2020年夏頃
【投資額】 約157億円



ベトナム工場の概要

【生産能力】 9,000トン/年
【完工時期】 2019年度冬頃
【投資額】 約17億円

建設中の新工場



建設中の新工場

4. グループ海外事業の成長戦略

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

- ・連結海外売上高比率は23%、海外営業利益(のれん等償却前)比率は36% (※)
- ・製粉事業では、それぞれ47%、63%に高まり、今後、新たなステージに入る (※)
- 加工食品事業、酵母・バイオ事業の海外展開も順調に進捗
- ・グループ総合力を発揮し、小麦粉関連素材事業のグローバル連携を強化していく

(※) 2020年3月期業績予想



5. 中食・惣菜事業の成長戦略①

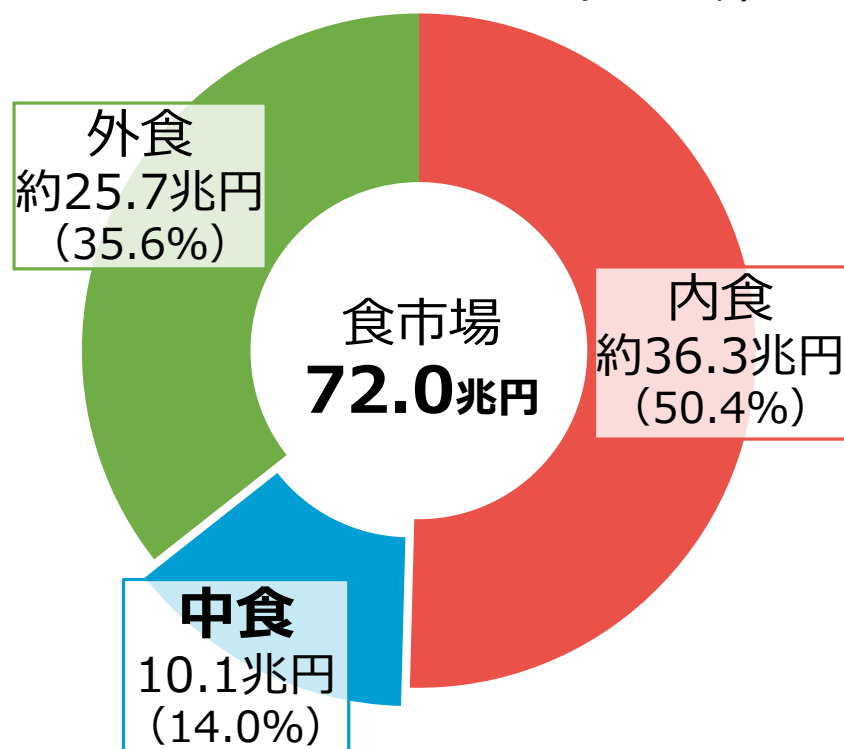
～ 食市場規模と中食市場の成長率の推移 ～

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

女性の就労増加、高齢化、単身世帯の増加等を反映し、
中食市場は大きく伸張、10兆円を突破

■ 食市場における「内・中・外食」の割合 (2017年)

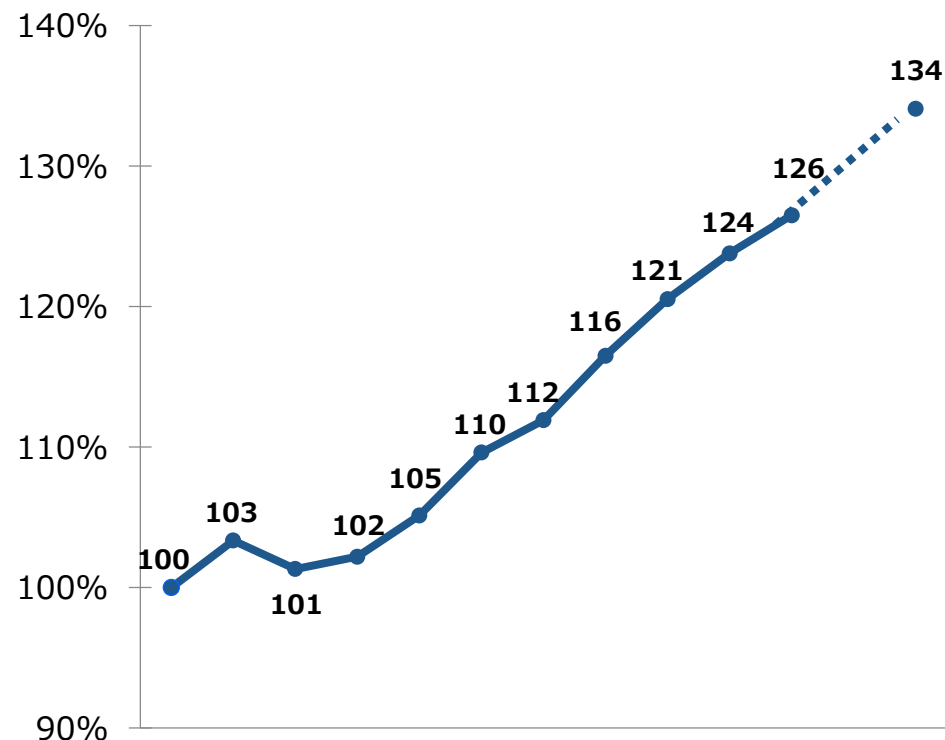


*「内食」当社推定

*「外食」日本フードサービス協会HPより

*「中食」日本惣菜協会「惣菜白書」より

■ 「中食市場」の成長率 (2007年を100とした場合の推移)



'07 '08 '09 '10 '11 '12 '13 '14 '15 '16 '17 '20
年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年
* 日本惣菜協会資料より当社推計 (予測)

5. 中食・惣菜事業の成長戦略②

～ 総合中食・惣菜メーカーに向けて ～

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

- ・トオカツフーズ(株)の普通株式51%を追加取得し、惣菜商品フルラインアップ体制を構築
- ・グループ総合力で製品開発や生産工程の自動化等に注力し、「高度に事業化されたビジネスモデルへの転換」を図り、総合中食・惣菜メーカーのポジションを確立していく

■ 中食・惣菜事業（2019年度業績予想）

イニシオフーズ、ジョイアス・フーズ、トオカツフーズの
3社合計

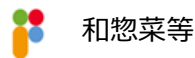
- ・売上高 1,306億円
- ・営業利益 30億円(※のれん等償却前ベース)
- (※)7月4日クロージング予定。のれんはPPA前の
当社概算額約150億円、償却期間を10年と
想定し算出

当社グループの中食・惣菜事業体制

日清製粉グループ本社 事業開発本部

中食・惣菜事業のマネジメント体制強化を図るべく新設
(2019年6月)

イニシオフーズ(株)



和惣菜等

2004年3月
設立

(株)ジョイアス・フーズ



調理麺等

2016年1月
連結子会社化

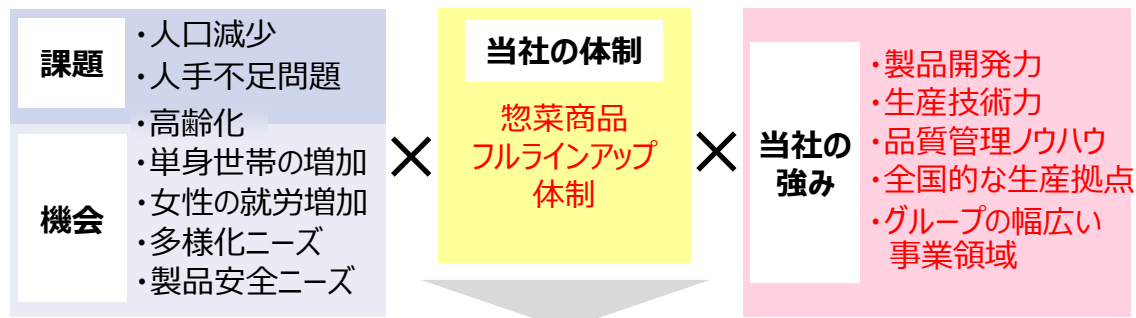
トオカツフーズ(株)



弁当、おにぎり、
サンドイッチ、惣菜等

2012年12月 持分法適用関連会社化
2019年 7月 連結子会社化（予定）

中食・惣菜事業 ビジネスモデル



高度に事業化されたビジネスモデルへの転換

(生産拠点)

2019年5月現在

- イニシオフーズ (6拠点)
- ジョイアス・フーズ (2拠点)
- トオカツフーズ (18拠点)

九州 ● 1拠点
● 1拠点

東北 ● 3拠点

関西 ● 1拠点
● 1拠点
● 4拠点

中部 ● 1拠点

関東 ● 3拠点
● 1拠点
● 10拠点

6. 加工食品事業の差別化戦略 ～ 高付加価値製品の開発 ～

健康と信頼をお届けする



市場環境の変化をとらえ、「**簡単・便利**」「**本格**」「**健康**」をキーワードに
高付加価値製品の開発を推進

簡単・便利

クッキングボトル シリーズ



薄力粉市場
第3位
シェア15%



片栗粉市場
第2位
シェア6%



パン粉市場
第2位
シェア5%

マ・マー 早ゆでスパゲティ

- ★当社独自開発の
“風ぐるま形状”
- ★ゆで時間半減



マ・マー Palette (パレット)

- ★小さなお鍋で5分の短時間調理
- ★パスタ4種×ソース4種の16通り



パスタ



ソース

健康

低糖質・穀物繊維



日清



「マ・マー わたし思いの」

冷凍

野菜・リコピン



「マ・マー パスタソース」

元日も人気



「Smart Table」

冷凍洋風惣菜

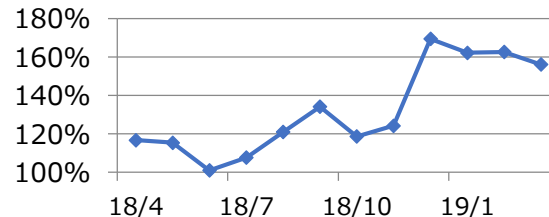
本格

青の洞窟



パスタソース

■ 青の洞窟月別前年比(SRI×SCI-Pデータをベースに当社推計)



冷凍パスタ

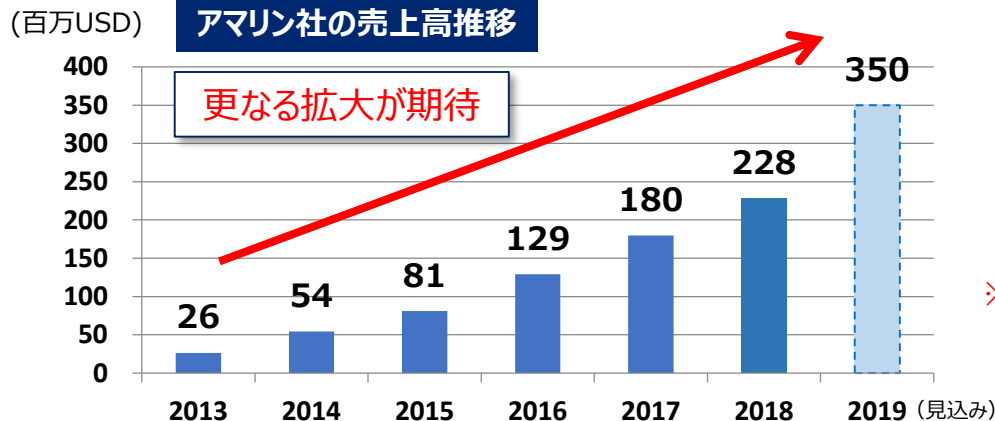
7. 日清ファルマ医薬品原薬「EPA-E」の需要拡大

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

- ・Amarin Corporation plc（以下、アマリン社）は、高脂血症治療薬「Vascepa（バセパ）」の追加薬効の承認に向けて3月にFDAへの申請を実施
- ・今後、原薬「EPA-E」の需要増加に対応すべく、当社グループも能力増強の準備に着手

- 既に承認済みの「Vascepa」の薬効は、血中の中性脂肪値が500mg/dl以上の重症高脂血症患者(米国に約380万人)の治療である
- アマリン社は、代表的なコレステロール低下剤であるスタチン類で治療を受け、且つ軽症の高脂血症患者が「Vascepa」を併用すると、**心臓発作や心不全等の心血管イベントリスクが25%低減**することを示すとの臨床試験結果を受け、2019年3月に追加薬効の申請を実施
- 米国**でスタチン類を使用する軽症高脂血症患者（約3,800万人）の心血管イベントリスク低減などの追加薬効が承認されれば、対象となる患者が大幅に増加するため、大きな成長が期待される
- アマリン社は販売員を150人から400人に増員するとともに、**カナダ、中東、中国**のパートナーと「Vascepa」の開発、販売に関するライセンス契約を締結している。また、2019年中の**欧州**での申請を目指しており、今後の米国以外での需要拡大も期待されている



今後のスケジュール

事柄	想定時期
追加薬効のFDAへの申請	2019年3月申請済
追加薬効の承認	2020年1月末頃※

※アマリン社は、FDAの審査期間は通常10か月だが、短縮される場合があると公表している。

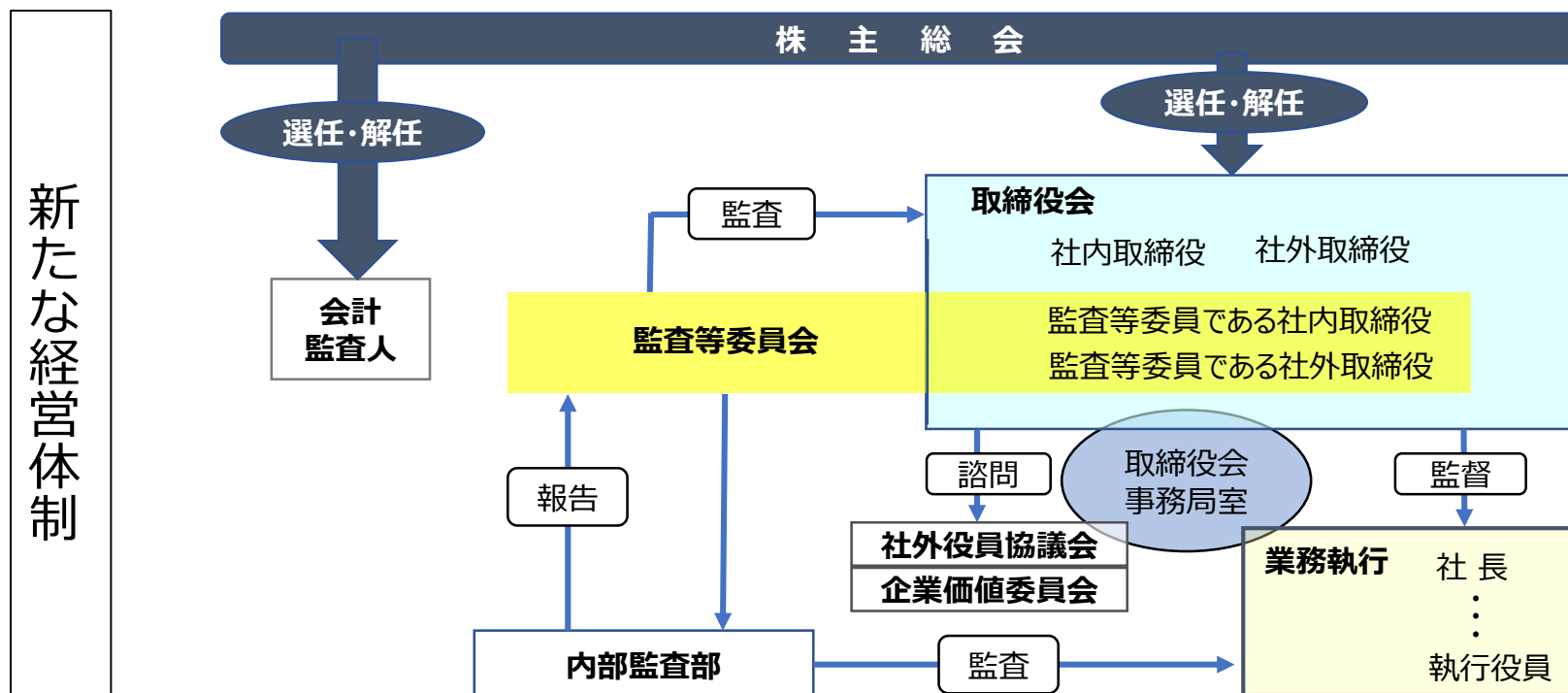
8. 成長戦略の実行力を高める組織体制の構築① ～ 監査等委員会設置会社に移行 ～

健康と信頼をお届けする



取締役会の監督機能の強化とコーポレートガバナンス体制の一層の充実を図るため、
新たな体制（監査等委員会設置会社）に移行し、同時に執行役員制度を変更

- 監査等委員である取締役が取締役会における議決権を有する**監査等委員会設置会社に移行**するとともに、社外取締役の比率を高め、取締役会による業務執行状況等の**監督機能を強化**
- **監査等委員会が業務執行の適法性・妥当性の監査を担う**ことで、経営の透明性をさらに高めるとともに、内部監査部を監査等委員会の直轄とし、**監査の充実**を目指す
- **業務執行取締役の権限を見直し**て経営の意思決定を迅速化し、**業務の機動性向上**を図る



8. 成長戦略の実行力を高める組織体制の構築②

～ 多様性ある取締役会構成 ～

健康と信頼をお届けする



多様性ある
4つの立場
からなる
取締役会

- ①持株会社専任で当社グループ全体を統括する取締役
- ②主要事業の市場環境及び経営に精通し、主要な事業子会社の経営者の立場を兼務する取締役
- ③企業経営者として、また社会公益的な立場として、独立する第三者的視点を有する社外取締役
- ④取締役会における議決権を有し、業務執行の適法性・妥当性の監査を担う監査等委員である取締役

持株会社

社内取締役
(男性：8名)

- ① 社長
副社長 総務本部 管掌
経理・財務本部 担当
R & D・品質保証本部 担当

主要事業

- ② 製粉事業 担当
食品事業 担当
中食・惣菜事業 担当

監査等委員会

- ④ 経理・財務 経験者
監査等委員会は、過半数を社外取締役で構成し、内部監査部を直轄する強力な監査体制を敷く

社外取締役
(男性：5名、女性：1名)

- ③ 企業経営 経験者
行政 経験者
金融機関経営 経験者

- ③ 弁護士
- ④ 会計士
- ④ 弁護士

社外取締役のみで
構成される組織

社外役員協議会

取締役会からの諮問を受けて、代表取締役等の指名、経営幹部の報酬等について協議を行う

企業価値委員会

買収提案を受領した際に企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に適うものであるかどうかの観点から買収提案を検討する



Ⅲ. 持続的な「循環成長」に向けた取組み

1. 持続的な「循環成長」に向けた取り組み①

～ NNI "Compass for the Future" ～

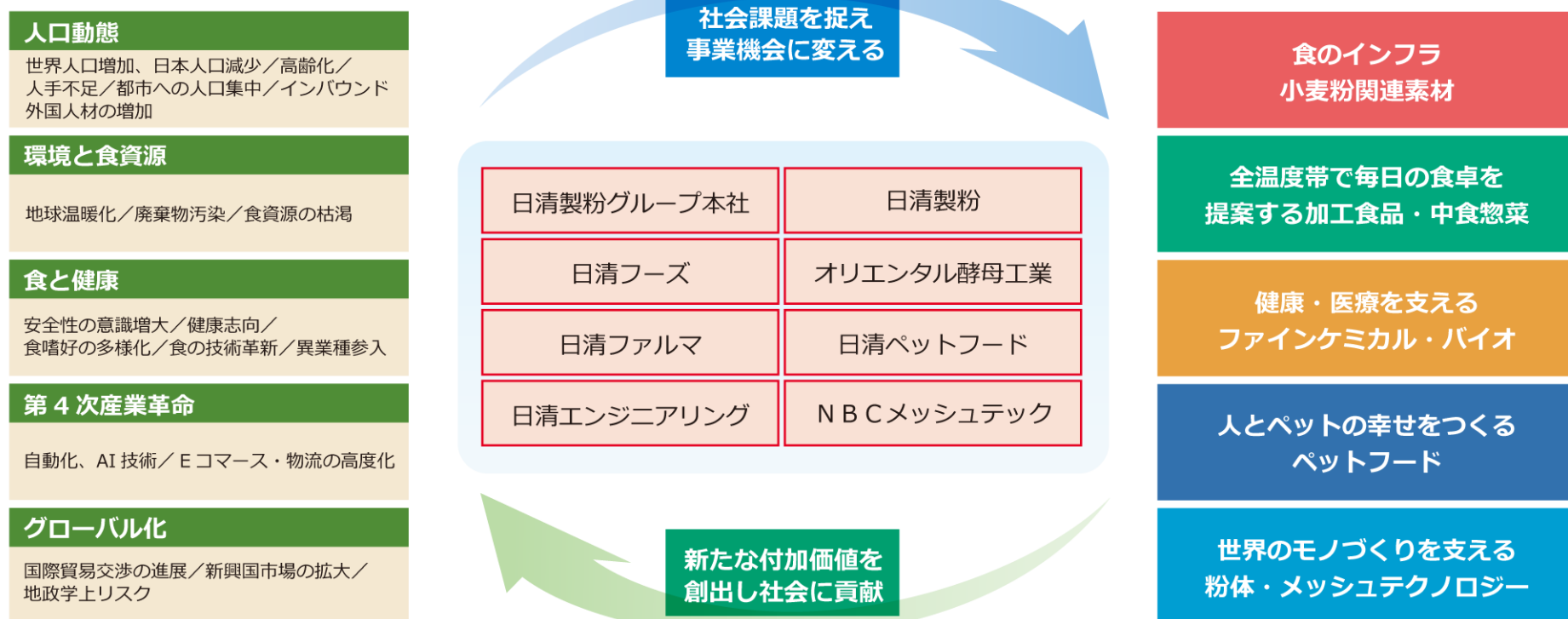
健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

- ▶ 当社グループは、社会課題や技術革新がもたらす非連続な環境変化から、機会と脅威を的確に捉え**強みを生かしてリスクを克服し事業機会に変えて行くことで、持続的な成長を実現**していく。その結果、自らが創出する付加価値を通じ社会に貢献していく循環を作り上げる
- ▶ 企業価値を高めるガバナンス（G）を強化し、当社グループが目指す新たなクロス・バリューチェーンと事業の持続可能性に関わる環境（E）・社会（S）への貢献を深く関連させ経営を推進していくことで、「**企業理念の実現**」と「**企業価値の極大化**」をより強く結び付け、各ステークホルダーから積極的に支持され続ける企業グループとして発展していく

企業理念に基づき、各事業が生み出す付加価値を通じ社会に貢献していく

日清製粉グループの「循環成長」イメージ



1. 持続的な「循環成長」に向けた取組み②

～ 日清製粉グループのCSR体系～

健康と信頼をお届けする



企業理念に基づくCSRの考え方を明確化し、事業に関わる5つの重要課題を特定
CSRを経営戦略に統合し、持続的な循環成長を目指す

5つのCSR重要課題

安全で健康的な
食の提供と責任
ある消費者コ
ミュニケーション



安定的かつ
持続可能な
原材料の
調達推進



食品廃棄物、
容器包装
廃棄物への
対応



気候変動
及び水問題
への対応



健全で
働きがいの
ある労働環境
の確保



日清製粉グループの
CSR体系

当社グループを
取り巻く社会課題

CSRの考え方
社会課題に向き合った当社固有のCSR

企業行動規範
社員行動指針

企業理念



館林製粉(株)開業式（群馬県館林町：現 館林市）

社は

- ・信を万事の本と為す
- ・時代への適合

- ①コーポレートガバナンス
- ②公正な事業慣行
- ③情報管理
- ④情報開示と対話
- ⑤消費者への責任と品質保証

- ⑥人権の尊重
- ⑦従業員満足
- ⑧地球環境
- ⑨社会参画
- ⑩社会的価値の創出



IV. 国際貿易交渉の進展

1. 国際貿易交渉①

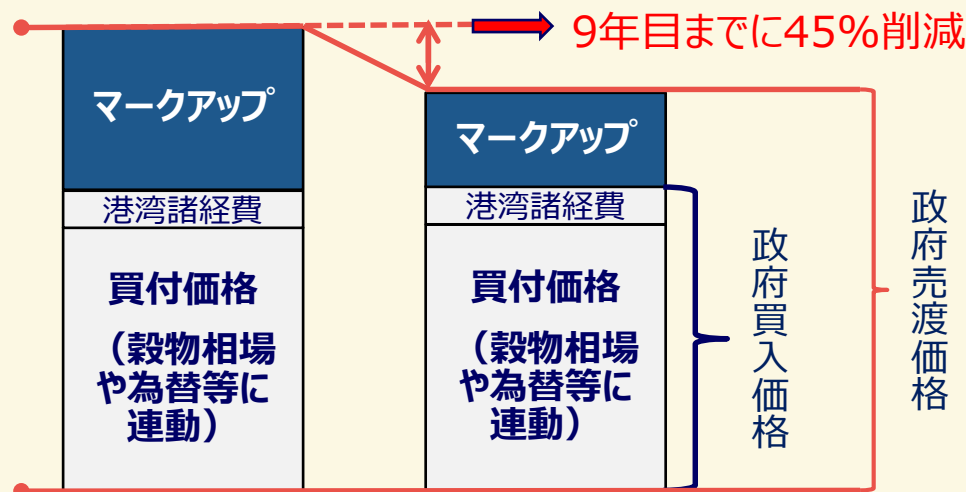
～ 日EU・EPA、TPP11の合意内容 ～

健康と信頼をお届けする



- 現行の国家貿易制度を維持し、マークアップ（政府が徴収している差益）を9年目までに45%削減。一部、SBS方式による国別枠、EU枠を設定。

<輸入小麦の政府売渡価格のイメージ>



品目	税率			枠数量	
	現行	日EU・EPA	TPP11合意	日EU・EPA (発効時) → (6年目)	TPP11 (発効時) → (6年目)
いった小麦、小麦粉等 (国家貿易品目)	90円/kg (小麦粉の場合)	枠内即時無税 +マークアップ (枠外税率は維持)	枠内即時無税 +マークアップ (枠外税率は維持)	3.8千ト → 4.4千ト	12.5千ト → 17.5千ト
小麦粉調製品	16%～28%	枠内即時無税 (枠外税率は維持)	枠内即時無税 (枠外税率は維持)	12.4千ト → 17.2千ト	21.8千ト → 30.5千ト
マカロニ・スパゲティ	30円/kg	11年目までに 関税撤廃	9年目までに 関税60%削減	-	-
ビスケット	13%～20.4%	6～11年目までに 関税撤廃	6年目に 関税撤廃	-	-

1. 国際貿易交渉②

～ 当社の視点 ～

健康と信頼をお届けする



国際貿易交渉に 対する当社の視点

小麦は幅広い食品の原料に使用されており、小麦生産者、製粉産業、食品産業、消費者、すべての段階での影響を勘案し、原料小麦、小麦関連製品の**輸入国境措置の整合性**が不可欠

特に米国のT P P 離脱により、**米国産小麦のマークアップは削減されず**、この対応次第では、国及び銘柄による小麦価格の不均衡が市場に混乱を生み出すことが懸念され、米国産小麦についても、カナダ・豪州産小麦のマークアップと等しく削減される必要がある

当社グループの対応

- ① 関税等の国境措置が低下しても、海外の製粉会社や海外からの輸入品との競争に勝ち抜ける**コスト競争力の強化策を引き続き実行**する
- ② 引き続き国内に事業基盤を確保して、**お客様へ安全で安心な小麦粉製品を安定的に供給**していくことが重要であり、製粉産業、食品産業が毀損しないように、政府に**マークアップ引下げを要請**していく

2019年4月に米国にて日米物品貿易協定(TAG)の初会合が開催され、同月開催された首脳会談では交渉の加速で一致した。今夏の大筋合意を目指すとの報道もなされており、注視していく



(参考) 小麦相場の状況

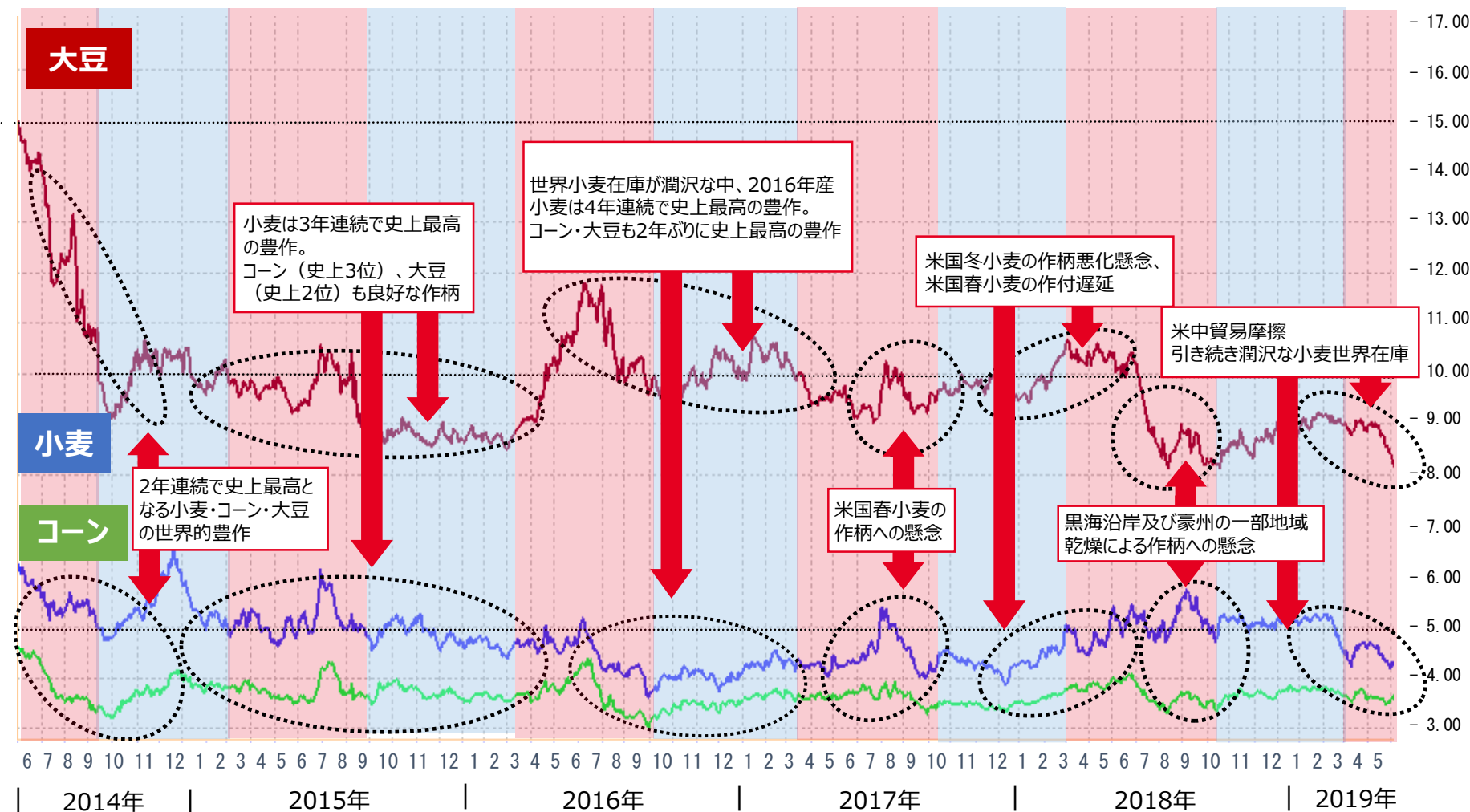
小麦相場の状況（１）

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

【穀物相場推移】

シカゴ先物相場 （単位：US \$ / Bu）



注）グラフの背景の色は、農水省の輸入小麦売渡価格算定期間ごとに色分けしている

【2019年4月期 麦価改定】（改定額算定期間：2018年9月第2週～2019年3月第1週）

- 小麦相場（シカゴ）は、EUや豪州等における乾燥天候による減収見込みがある一方、ロシアの生産見通しの上方修正等により大きな変動はなかったが、燃料油価格の影響による海上運賃の下落により、小麦の輸入価格は下がった。



2019年 4月 1日 ～ 輸入小麦政府売渡価格 5銘柄平均 1.7%値下げ

2019年 7月10日 ～ 日清製粉(株)業務用小麦粉を値下げ

【今後の小麦相場の変動要因】

上昇要因

- ・中国における穀物需要の米国産回帰（米中貿易協議の動向次第）
- ・米国における2019年産春小麦の作付遅延に伴う、作付面積減少懸念

下落要因

- ・生産量、在庫共に前年から減少するものの、引き続き潤沢な世界小麦在庫見通し
- ・米国における2019年産冬小麦の順調な生育に伴う良好な作柄見通し



2019年3月期 決算説明

実績、業績予想

2019年5月16日

株式会社日清製粉グループ本社



目次



1. 2019年3月期 実績
2. セグメント別実績
3. 営業外損益・特別損益
4. キャッシュ・フロー計算書
5. 2020年3月期 業績予想

1. 2019年3月期 実績①

健康と信頼をお届けする



(百万円)	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績				
			前年差	前年比	業績 予想差	業績 予想比
売上高 (うち海外売上高)	540,094 (96,290)	565,343 (103,739)	+ 25,248 (+ 7,448)	+ 4.7% (+ 7.7%)	+ 343 (+ 1,139)	+ 0.1% (+ 1.1%)
製粉	234,799	245,943	+ 11,143	+ 4.7%	▲ 2,056	▲ 0.8%
食品	254,000	258,783	+ 4,783	+ 1.9%	▲ 216	▲ 0.1%
その他	51,295	60,616	+ 9,321	+ 18.2%	+ 2,616	+ 4.5%
営業利益 (うち海外営業利益)	27,200 (4,033)	26,916 (3,880)	▲ 284 (▲ 152)	▲ 1.0% (▲ 3.8%)	▲ 583 (▲ 719)	▲ 2.1% (▲ 15.6%)
製粉	9,957	9,179	▲ 778	▲ 7.8%	▲ 920	▲ 9.1%
食品	13,473	13,421	▲ 51	▲ 0.4%	▲ 78	▲ 0.6%
その他	3,613	4,088	+ 474	+ 13.1%	+ 388	+ 10.5%
調整*	155	226	+ 70	+ 45.6%	+ 26	+ 13.3%
経常利益	31,800	32,062	+ 262	+ 0.8%	+ 62	+ 0.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	21,339	22,268	+ 929	+ 4.4%	+ 268	+ 1.2%
*セグメント間取引消去等						
(参考)						
のれん等償却前営業利益	29,440	29,172	▲ 268	▲ 0.9%	▲ 527	▲ 1.8%

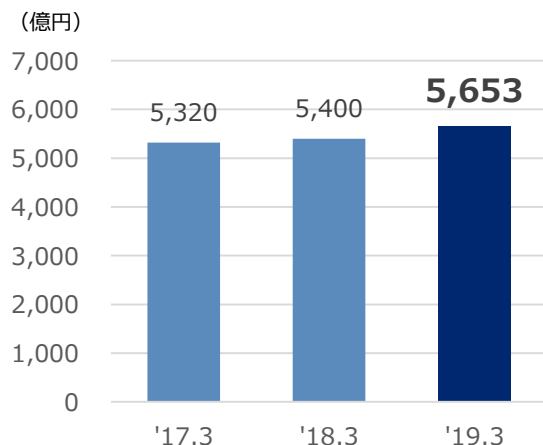
※金額は百万円未満切り捨て

1. 2019年3月期 実績②

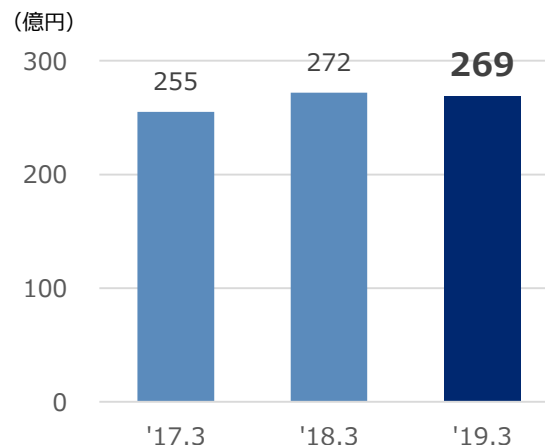
健康と信頼をお届けする



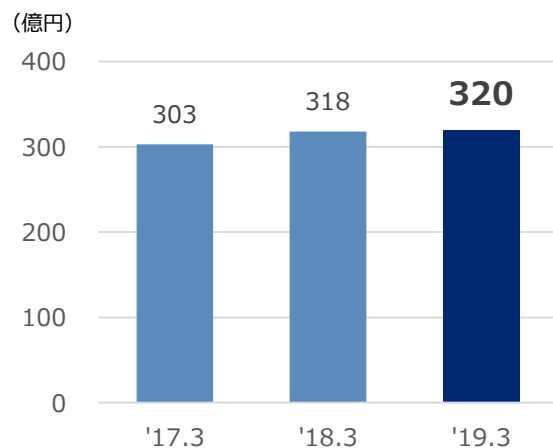
売上高



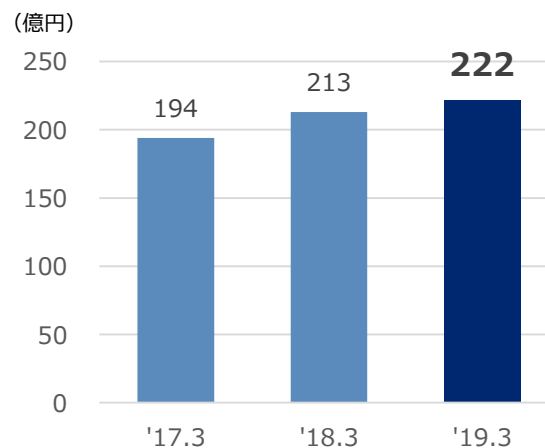
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



※金額は億円未満切り捨て

▶ 売上高は、麦価改定に伴う小麦粉価格改定の影響、及びエンジニアリング事業における大型工事の好調な進捗等により**増収**

▶ 営業利益は、米国向け医薬品原薬の輸出、及び大型の設備工事案件等が好調に進捗したものの、人員増強や研究開発、広告宣伝の強化、Allied Pinnacle Pty Ltd.（以下、アライド・ピナクル）買収関連費用等の戦略コスト増、及び競争が厳しい米国製粉事業のマイナス等により**減益**

売上高 : 前年比 +4.7%

営業利益 : 同 ▲1.0%

経常利益 : 同 +0.8%

親会社株主に帰属する当期

純利益 : 同 +4.4%

2. セグメント別実績①

健康と信頼をお届けする



セグメント別 売上高分析（前年差）

製粉 +111億円

（単位：億円）

国内小麦粉出荷（出荷前年比98.9%）	▲19
麦価改定に伴う粉価改定他	+73
ふすま価格	+3
海外売上他	+54

その他 +93億円

（単位：億円）

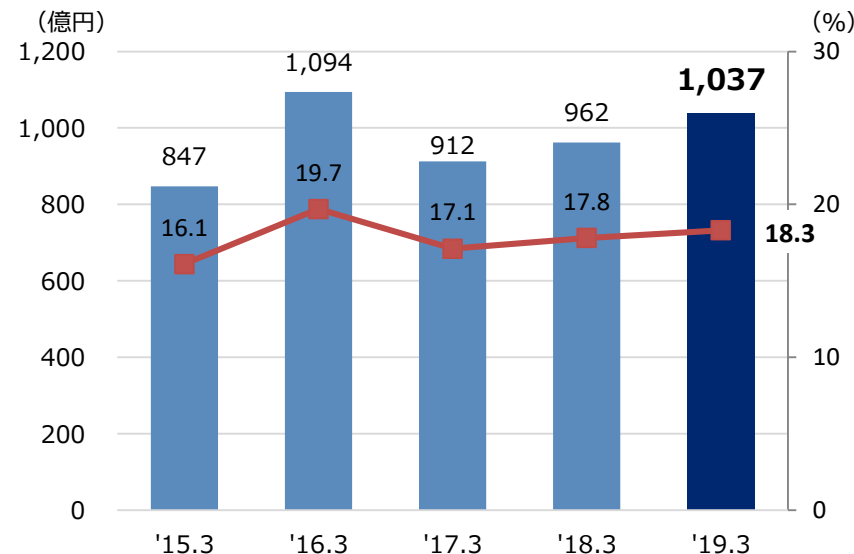
日清ペットフード売上	▲2
NBCメッシュテック売上	▲5
設備工事売上他（日清エンジニアリング他）	+100

食品 +48億円

（単位：億円）

加工食品売上	+29
家庭用小麦粉売上	▲3
プレミックス売上	+13
パスタ関連売上	+1
冷凍食品売上	▲16
中食・惣菜売上	+30
加工食品海外売上	+8
その他	▲4
オリエンタル酵母工業売上	+4
日清ファルマ売上	+15

【参考】海外売上高 * 折れ線は海外売上高比率



2. セグメント別実績②

健康と信頼をお届けする



日清製粉グループ

セグメント別営業利益分析（前年差）

製粉

▲8億円

（単位：億円）

国内小麦粉出荷数量	▲3
拡販施策費	▲1
ふすま価格	+5
コスト関連	▲5
海外子会社他	▲4

その他

+5億円

（単位：億円）

売上	+11
コスト関連他	▲6

食品

▲1億円

（単位：億円）

出荷数量	+16
拡販施策費	▲1
コスト関連	▲15
海外子会社他	▲1

調整

+1億円

（単位：億円）

セグメント間取引消去等	+1
-------------	----

3. 営業外損益・特別損益

健康と信頼をお届けする



(百万円)	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	前年差	備考 ※金額は百万円未満切り捨て
営業利益	27,200	26,916	▲284	
営業外収益	5,084	5,751	+666	
受取利息	305	458	+152	
受取配当金	2,412	2,655	+243	
持分法による投資利益	1,771	1,647	▲123	
その他	595	990	+394	
営業外費用	485	605	+120	
支払利息	221	257	+36	
災害による損失	—	108	+108	
その他	263	239	▲24	
営業外損益収支	4,599	5,146	+546	
経常利益	31,800	32,062	+262	
特別利益	1,365	1,581	+216	
固定資産売却益	1,007	201	▲805	
投資有価証券売却益	357	1,379	+1,022	
特別損失	734	529	▲205	
固定資産除却損	605	457	▲147	
減損損失	129	72	▲57	
特別損益収支	630	1,051	+421	

4. キャッシュ・フロー計算書

健康と信頼をお届けする



(億円)

	2018年 3月期	2019年3月期			
		実績	増減	実績の主な内容	
現金及び現金同等物の期首残高	908	984	+76		手許資金* 994
営業活動によるC F	428	398	▲ 29	税金等調整前当期純利益 +331 減価償却費 +149 法人税等の支払額 ▲74	
投資活動によるC F	▲180	▲191	▲11	設備投資（支払いベース） ▲182	
財務活動によるC F	▲185	▲105	+80	配当金支払額 ▲92	
為替換算他	14	▲2	▲16		
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額	—	▲10	▲10		
現金及び現金同等物の期末残高	984	1,073	+89		手許資金* 1,093

* 手許資金：3ヶ月超預金、運用債券も含める

【参考】

	2018年 3月期	2019年 3月期	増減	主な増減要因
設備投資（支払いベース）	197	182	▲14	
減価償却	155	149	▲5	

※金額は億円未満切り捨て

5. 2020年3月期 業績予想①

健康と信頼をお届けする



- ▶ 売上高は、アライド・ピナクル及びトオカツフーズ(株)の買収効果により**増収**を見込む
- ▶ 営業利益は、アライド・ピナクル及びトオカツフーズ(株)の買収に伴うPMI費用の増加を含む戦略コストが発生するものの、新規連結効果、米国向け医薬品原薬の輸出好調等により**増益**を見込む
なお、アライド・ピナクルがリースしている固定資産に対応したリース負債の支払利息の影響により、経常利益は微減益を見込む

(百万円)		2019年3月期 実績	2020年3月期 業績予想	前年差	前年比
売上高		565,343	725,000	+ 159,656	+ 28.2%
	うち海外売上高 (海外売上高比率)	103,739 (18.3%)	169,400 (23.4%)	+ 65,660	+ 63.3%
営業利益*		26,916	30,000	+ 3,083	+ 11.5%
	うち海外営業利益 (海外営業利益比率)	3,880 (14.4%)	6,500 (21.7%)	+ 2,619	+ 67.5%
経常利益		32,062	31,700	▲ 362	▲ 1.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益		22,268	23,300	+ 1,031	+ 4.6%

* 2020年3月期業績予想に織り込んだアライド・ピナクル及びトオカツフーズ(株)ののれん償却費等はPPA前の概算値であり、変動の可能性がある

※金額は百万円未満切り捨て

5. 2020年3月期 業績予想②

健康と信頼をお届けする



セグメント別 売上高

(単位：億円)

	業績予想	前年差
製粉	3,150	+ 690
食品	3,520	+ 932
その他	580	▲ 26
合 計	7,250	+ 1,596

製粉

+ 690億円

(単位：億円)

国内小麦粉出荷（出荷前年比101%）	+ 22
麦価改定に伴う粉価改定他	+ 39
ふすま価格	+ 2
海外売上他	+ 627

食 品

+ 932億円

加工食品国内売上	+ 24
加工食品海外売上	+ 5
中食・惣菜売上	+ 869
オリエンタル酵母工業売上	+ 25
日清ファルマ売上	+ 9

その他

▲ 26億円

日清ペットフード売上	+ 4
N B C メッシュテック売上	+ 6
設備工事売上他（日清エンジニアリング他）	▲ 36

5. 2020年3月期 業績予想③

健康と信頼をお届けする



セグメント別 営業利益

(単位：百万円)

	業績予想	前年差
製 粉	11,000	+ 1,820
食 品	14,600	+ 1,178
その他	4,100	+ 11
調 整*	300	+ 73
合 計	30,000	+ 3,083

* セグメント間取引消去等

製 粉 + 18億円

(単位：億円)

国内小麦粉出荷数量	+ 2
拡販施策費	▲ 1
ふすま価格	+ 1
コスト関連	▲ 7
海外子会社他	+ 23

食 品 + 12億円

出荷数量	+ 17
拡販施策費	+ 3
コスト関連	▲ 10
海外子会社他 (オリエンタル酵母、ファルマ輸出含む)	+ 2

その他 + 0 億円

売上	+ 0
コスト関連他	+ 0

5. 2020年3月期 業績予想④

健康と信頼をお届けする



営業外損益

(単位：百万円)

		2019年3月期 実績	2020年3月期 業績予想	前年差
営業利益		26,916	30,000	+ 3,083
営業外損益	金融収支尻	2,856	300	▲ 2,555
	持分法利益	1,647	1,000	▲ 647
	その他	642	400	▲ 242
		5,146	1,700	▲ 3,446
経常利益		32,062	31,700	▲ 362



記載内容に関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。